

(社)北海道臨床工学技士会ニュース

NO. 70

ホームページ <http://hcea.umin.ac.jp>事務局 takao.murohashi@nifty.ne.jp

発行人：真下 泰

〒004-8618

札幌市厚別区厚別中央2条6丁目

札幌社会保険総合病院 ME部

TEL 011-893-3000

FAX 011-893-4001

第1回 血液浄化セミナーのご案内

(社)北海道臨床工学技士会では、今年より生涯教育整備事業の一環といたしまして血液浄化セミナーを開催することになりました。本セミナーは血液浄化の知識および技術の向上を目的とし、臨床工学技士のみならず血液浄化に携わる看護師、学生の方々にも、気軽にご参加いただける内容と致しました。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

開催日 : 平成18年7月9日(日) AM 10:00~(受付 9:20~)

会場 : 札幌市教育文化会館 講堂
(札幌市中央区北1条西13丁目 TEL.011-271-5821)交通 : 地下鉄東西線 西11丁目(1番出口)から徒歩4分
JR・中央バス厚生年金会館前から徒歩1分
市電西15丁目(教育委員会)前から徒歩10分

(近隣の駐車場:ビッグシャイン88があります。
<http://www.kyobun.org/bigshine.html>にてページをプリントのうえ
ご持参下さい。1時間無料でご優待します。20分100円)

参加費 : 当日、受付時にお支払下さい

一般 ¥5,000

道臨工会員 ¥3,000

臨床工学学生 ¥2,000

(テキストおよび昼食代を含みます)

定員 : 事前申込み 150名

【専用のFAX用紙又は(社)北海道臨床工学技士会のホームページ
<http://hcea.umin.ac.jp>より受付が可能です】

申込み締め切り : 6月25日(日)

定員になり次第締め切らせていただきます。

(参加人数が30名に満たない場合は中止致します。改めてご連絡致します)

対象 : 臨床工学技士・看護師・各医療関係者の初任者・学生

主催 : (社)北海道臨床工学技士会

第1回血液浄化セミナーオンライン受講申込の件でお詫びとお願い

平成18年7月9日(日)開催の第1回血液浄化セミナーの件ですが、登録情報を管理しておりましたパソコンがトラブルを起こし、5月中に受講申し込みをされた方のデータの復旧ができなくなってしまいました。

つきましてはご多忙中、誠に強縮ですが5月中に技士会ホームページ上からオンラインで受講申し込みをされた方は、お手数ですが再度登録をお願い致します。オンライン登録受付は5月17日から開始し、31日までに約10名の申し込み登録者がおられました。

トラブル発生後は、このようなことが起こらないようにバックアップ体制を充実させておりますが、重要なファイルの管理が万全ではなかったことは平にお詫び申し上げます。

なお、6月1日以降にオンラインで受講の申し込みをされた皆様は問題なく登録されております。

大変ご面倒をお掛けしてしまい申し訳ありません。どうかご理解の上、対応をお願い致します。

心配な方は再度登録して頂いても構いません。重複している場合はこちらで対応しますが、不明な点がありましたらホームページの第1回血液浄化セミナー参加申し込みフォームの備考欄にお問い合わせ内容を記入し送信して下さい。

第1回 血液浄化セミナープログラム

09:20 ~ 受付開始

09:55 ~ 開会の挨拶

(社)北海道臨床工学技士会 会長 真下 泰

10:00 ~ 【1 血液透析の基礎知識】

(医)恵水会 札幌北クリニック 大平 整爾 先生

11:00 ~ 【2 アクセスと穿刺】

(医)恵水会 札幌北クリニック 大平 整爾 先生

12:00 ~ 13:00【昼食&昼休み】

13:00 ~ 【3 透析患者のデータの読み方】

北海道社会保険病院 佐藤 恵 先生

14:00 ~ 【4 透析患者の看護】

日本腎不全看護学会 理事 宇田 有希 先生

15:00 ~ 【5 長期透析患者の合併症とその対策】

市立札幌病院 城下 弘一 先生

16:00 ~ 【6 その他の血液浄化法】

(医)北榆会 札幌北榆病院 米川 元樹 先生

16:30 ~ 閉会の辞

(社)北海道臨床工学技士会 学術担当理事 室橋 高男

「電気メス安全セミナー」のご案内

日時 平成18年7月22日(土) 14:00 ~ 16:30

(15:00 ~ コーヒーブレイク)

会場 アートホテルズ札幌 ポプラの間

札幌市中央区南9条西2丁目 TEL 011-512-3456

最寄り駅：地下鉄南北線 中島公園駅下車 徒歩2分

入場料 無料

主催 社団法人 北海道臨床工学技士会

後援 小林製薬(株)小林メディカル事業部

「電気メスを安全に使っていただくために」

演者 旭川医科大学病院 臨床工学室 宗万 孝次 先生

上記の通り安全セミナーが開催されます。当セミナーでは「電気メスで事故を起こさないために」をテーマに電気メスの基礎原理から、実際に電気メスを使用していただくデモンストレーションなども取り入れた内容となっております。万障お繰り合わせの上、是非ともご参加頂きますようご案内申し上げます。

参加希望者は7月15日(金)までに専用の申込用紙でFAXにてお申し込み下さい。尚、席に限りがございますので早めにお申し込みいただきますようお願い申し上げます。

問い合わせ先

小林製薬(株)小林メディカル

担当 高橋・後藤

TEL 011-622-4361

FAX 011-622-4363

RM ニュース

< アラーム気付かず乳児死亡 >

埼玉県川口市の病院は24日、血中酸素量の低下を知らせるアラーム音に看護師が気付かず、たんが詰まって呼吸が止まった5カ月の女児の措置が遅れ、昨年10月に死亡したと公表した。

同病院は「建物の構造上、アラームが別室の看護師に聞こえにくいと知っていたが、改善していなかった」として遺族に謝罪。補償に応じるとともに、アラームの拡声器を取り付けるなどの対策を取った。

死亡した女児は、別の病院でのどを手術し、リハビリのため同病院に入院していた昨年10月3日未明、看護師3人がミルクの準備で給湯室などにいた5分間に呼吸が停止。病室に戻った看護師がアラームに気付き、救命措置をしたが同16日に死亡した。

病院側とともに記者会見した父親は「ナースステーションですら音が聞こえなかったとは。娘は声が出せず、異常を知らせるのはアラームだけだったのに」と話した。(3月27日:共同通信社)

< 機器不備で全身麻酔 >

兵庫県姫路市の病院で、蓄膿(ちくのう)の手術中に低酸素脳症に陥り死亡した同市の男性=当時(46)=の妻ら遺族が、病院側に計約1億2000万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、神戸地裁は13日、病院側の過失を一部認め、計約5200万円を支払うよう命じた。

判決理由で裁判長は、手術中に指に装着して血中の酸素状態を測定する機器を装着しなかったことと死亡との因果関係を認定。「全身麻酔での手術に必要なこの機器を備えていないのに、手術したのは違法」と指摘した。

判決によると、男性は2000年2月に同病院で手術を受けた。しかし、手術中に低酸素状態から心肺停止に陥り、術後に別の病院へ搬送されたが、低酸素脳症による脳機能障害で死亡した。

(4月14日:共同通信社)

< 透析患者33人に消毒薬混入

一部が不調訴える >

岐阜市の病院は19日、人工透析患者の透析液に機械の不具合から誤って消毒薬が混入する医療事故が15日にあったと発表した。一部の患者が不調を訴えたが、その後、全員が回復に向かっているという。

同病院によると、人工透析は1台の透析機から枝分かれした個々の透析装置を使って実施。使用後は透析機の内部を薬液で消毒している。15日は午前8時半から33人に対して開始したが、同11時半ごろ、約10人が吐き気などを訴えた。

病院が調べたところ、薬液を入れるタンクと透析機をつなぐ管にある弁に、数ミリ大の塊が数個つまり、透析中は閉まっているはずの弁が完全には閉まらない状態になっていた。薬液を入れる際に薬液のボトルのふたに付着していた粘着剤と一緒にタンク内に入った可能性が高いという。

同病院では午前10時ごろに約60リットルの薬液をタンクに注入しており、患者らが異状を訴えるまでに約20リットルが透析機に流れ込み、個々の透析装置を通して患者の透析液に混入したとみられる。

病院は事故後直ちに患者に謝罪や説明をするとともに、このうちの外来患者には入院を勧め、21人が入院。19日昼までに14人が退院するなど経過は良好という。

同日午後、記者会見した院長は「機械を信頼しすぎていたと反省している。事故防止に取り組みたい」と話した。(4月20日:共同通信社)

おしらせ

7月27日(木)、28日(金)に道庁ロビーで「北海道医療技術者団体連絡協議会パネル展」が開催されます。

平成 18 年度(社)北海道臨床工学技士会総会終了



総会時の様子

去る4月30日、札幌コンベンションセンターにおいて、平成18年度(社)北海道臨床工学技士会総会が行われ、無事終了しました。また、新たに選出された理事の紹介も行われました。これからの(社)北海道臨床工学技士会のますますの発展のために頑張ってください。



新たに選出された理事の方々

頑張れ！フレッシューズ 三年目 CE の【日々迷走】～(9)

3年目A

時の流れは早いものでCE生活も3年目に突入した。1年目の頃に思い描いていた未来、その通りになったこともあれば果たせなかったこともある。思い返せば実現できたことの多くは自分自身の努力の成果ではなく、ほとんどが先輩からのお力添えあってのことだった。色んな局面で相談に乗っていただいた先輩諸兄には足を向けては寝られない。自分も後輩に的確なアドバイスが出来る技士を目指して頑張らねばと思うが、今年もまだ寂しく一人職場である。

1年目の頃からの目標として、経験年数を満たしたら「認定士」などの資格を狙っていかうと思っていた。目標が無いと気張れない性格であるし、認定士を取得後に維持するには定期的に講習に参加して単位を取らなくてはならないので、出張を渋る病院への言い訳に使えると企んでいたのだ。3年目の今年は経験年数2年で受験できる呼吸療法認定士にしようと資料を揃えて準備していたところ、見事に失敗した。申し込み受付開始日から1週間も経たないうちに定員に達して締め切られてしまったのである…。新年度のつけから計画が狂ってしまったが、1年猶予をもらったと思って勉強しておこう。

昨年やってみて面白かったものに病院の親睦会活動があった。親睦会は毎年各科・部署から代表者を出して忘年会などの行事を主催するのだが、これがまた役員同士の打ち合わせや外部業者との連絡が煩雑で大変であった。昨年は医療機器メーカーと同じくらいの頻度で業者にも電話していた気がする。しかし大変なだけに同期の役員の間には連帯感が生まれ、任期を終えた現も良い飲み仲間になった。所属を超えた幅広い集まりで話が出るのは楽しくもあり色々と考えさせられることもある。CEの業務上の付き合いは看護部や事務などに限定されがちだが、こういった交流も面倒がらずやってみるものだ。

北海道臨床工学技士会ニュース			
広報担当	仁友会 北彩都病院	臨床工学科	石川幸広
編集委員	旭川医科大学附属病院	臨床工学室	宗万孝次
	旭川赤十字病院	臨床工学課	奥山幸典
	市立旭川病院	臨床工学室	窪田将司

印刷
岡本印刷株式会社
札幌市北区新川西2条1丁目
3番21号
011-766-2551